

# 子ども教育通信



## めざせ! 学校の先生

\*\*\*\*\*

### 実践・実習 Special

教育の現場で実際に子どもたちに教える、教育実習。大学の授業の中で本番さながらに教壇に立って話す、模擬授業。このような教育の実践を、仁愛大学の子ども教育学科では、大切なカリキュラムとして重視しています。



## 実際の子どもたちは、大学にはない学びをくれました。

先生を目指しているにも関わらず、人前で話すのが苦手な私は、担当の先生と事前にいくつかのポイントを話し合ってから実践に臨みました。しかし、コミュニケーションしていたつもりが、想定外の質問や行動など、実際の子どもは思い通りには動いてくれません。その都度、臨機応変に対応することの大切さを知りました。今後は、子どものことをもっとよく理解して、子どもに成長できる先生になれるよう頑張りたいです。

実習で体験したのは大きく分けて4つの活動です。先生方の指導風景を見て学ぶ「学習活動見学」、朝の会や掃除・帰りの会などに立ち会う「生活指導・生徒指導」、マラソン大会や社会科見学など「行事を通じた学習」、そして「授業」。すべての場面で勉強になりましたが、特に授業の実習が印象に残っています。



### 体験しました!小学校実習

子ども教育学科4年  
**土谷 裕香里**  
(勝山高校出身)

〈実習期間〉5月27日～6月21日  
〈実習先・クラス〉福井市東安居小学校・4年1組

### 教育実習の 魅力



### 杉田 和一 准教授

実習終了後に提出された報告書の行間から一様に読み取れる声がある。「教師への夢を抱いて大学で学んでいる私。教師としての資質があるのかと不安に駆られながら実習に臨んだ。小学校の授業の実際は、発問が不明瞭・ランダムな机間指導・不自然な高揚感など散々であった。今なお、子どもの分かる喜び・できない苦しみなど『教室の事実』が私を惹きつけ、突き動かす。教師への道は甘くないが、4週間前の私ではない自分に仄かな自信を持ち、教師への夢に向かって練習している。『教室の事実』を記録し、物語ることによって、教育活動だけでなく人生が深まっていく。教育実習の本性であり、魅力である。実習体験を再度、大学の教職理論にのせていこう。

# めざせ! 学校の先生

実践・実習  
Special



## 挑戦! 模擬授業

# 実習の準備として、 授業を作り上げる。

### 道徳教育の理論と方法

仁愛大学の子ども教育学科では、実際の教育現場における実習の準備段階として、学生を対象として行う模擬授業を重視しています。教育目標に合わせた完成度の高い学習内容を目指すために、アプローチの方法、流れ、教材を何度も考え直しながら、学生は、模擬授業に挑んでいます。



## 大事なのは指導案の作成プロセス。

今回の模擬授業は、さりげない一言にも人の心を動かす力があることを体感的に理解しようというもの。展開がよく練られており、水準の高い授業だったと思います。模擬授業というと授業自体に注意が向かいがちですが、大事なのは指導案の作成プロセスです。何をどう伝えるかを考え、それにふさわしい教材の研究が重要。実際の現場では必ず想定外のことが起こります。特に道徳では、答えが一つに定まらないことも多く、様々な意見や質問が出てくるので、緻密なシミュレーションが必要です。3年生になると、実習時に指導計画を作成することが多くなります。現場に立つ前にできることを大切にしてほしいですね。

高野秀晴 准教授



## 授業を体験して

いろいろな人の模擬授業を  
ととして、良い部分を学べます。  
子ども教育学科3年  
坂上佑希 (羽水高校出身)

指導案を何度も改善し、  
納得できる内容ができました。  
子ども教育学科3年  
久保美沙希 (羽水高校出身)

「授業を行う側」の体験は、  
とても新鮮でした。  
子ども教育学科3年  
小島由圭 (羽水高校出身)



## 先生になった先輩から

## 楽しんで取り組むことの大切さ。

幼児の成長する姿に出逢ったり、保護者からの温かい言葉をいただくことに、日々やりがいを感じています。今後は、今以上に子どもたちの事を第一に考え、素敵で笑顔で楽しく保育のできる教師になりたいです。先輩の皆さん、ぜひいろんなことに、前向きに取り組んでください。楽しく過ごす力が皆さんのより良い時間をつくるのではと思います。

西出有希 (平成24年度卒業)  
仁愛女子短期大学附属幼稚園 (満3歳児担任)  
(三国高校出身)



## 選択肢を増やすために、資格取得を。

夢を持つのは大事ですが、固執する必要はないかと思います。最初、幼稚園教諭になりたかった私は、大学4年生で進路を変えました。選択肢を増やすためにも、出来るだけ資格は取得しておいた方が良いです。想いや経験に関係なく、子どもたちは「先生」として接してきます。子どもたちの笑顔のために、勉強を重ね、子どもには色々な経験をさせてあげたいと思います。

栗林知加 (平成24年度卒業)  
東京都大田区六郷小学校 (特別支援学級)  
(大野高校出身)

